

3. 調査方法

(財)消防科学総合センター職員が対象となる消防本部を訪れ、ヒアリング調査並びに消防庁舎の視察を行った。

それぞれで情報収集する項目は、下記の事項を目安とし、できる限り全ての事項を収集することとした。なお、得られた情報は調査時のものであり、現在とは異なっていることも考えられる。

(1) ヒアリング調査

- ① 災害の様子
- ② 総務部門について
 - ア. 消防庁舎のこと
 - イ. 車両や資機材のこと
 - ウ. 通信指令・連絡のこと
 - エ. 活動体制・人員のこと
- ③ 警防部門について
- ④ 予防部門について
- ⑤ 消防体制の今後について
- ⑥ その他、今回の活動から気づいたこと

(2) 消防庁舎視察

- ア. 消防庁舎の状況
- イ. 被災による移転の場合、仮設庁舎の状況
- ウ. その他、特筆すべき事項

4. ヒアリング調査結果

消防本部での聞き取り調査の結果を以下に示す。

調査にあたっては、この調査に協力頂いたことが、消防本部に不利益を生じさせない様、表記は1文章が1本部からの回答とした匿名としており、これを列挙している。

(1) 災害の様子

はじめに、消防本部管轄の災害の様子について質問した。今回の災害は津波による被害が甚大であったことから、地震発生から津波が到達するまでと、それ以降の様子について分けて質問した。

回答によれば、多くの地域では地震動そのものによる被害は軽微であったことが、津波により様相は一変したこと、また津波は人々の予想を大きく上回ったものであることが伺える。

① 地震直後の様子

- 周辺は震度6弱。断水が発災から2週間、停電が発災から3~4日、電話不通が発災翌日から2日程度続いたが、いずれも市内全域で発生し、庁舎の被害によるものではない。
- 地震による被害自体は少く、全壊建物は数棟に留まった。
- 主要な消防署などかなり大きな被害を受ける。建物の倒壊被害は100棟以下、停電が発生した。
- 震度は4程度であったが、停電が発生し、情報が入らなくなった。非常参集は行わず、通常体制として対応していた。津波が来ることを想定していたが、高くて3m程と考えていた。
- 地震の揺れは、収まったと思うとまた揺れだし三段階くらいあった。本部庁舎には震度計が設置されていたが、最終数値を確認していない。県にも送られていなかった。地震による建物倒壊はなかった。